

農政局だより @ひょうご

2022.12
H-SATT

〒650-0024

神戸市中央区海岸通29 神戸地方合同庁舎

TEL:078-331-5924 Email:hyogo28_hsatt_kinki@maff.go.jp



朝来市認定農業者協議会の方たちと意見交換を行いました



近畿農政局兵庫県拠点は、11月16日(水)に朝来市認定農業者協議会主催の研修会に参加し同協議会に属している農業者22名と意見交換を行いました。

冒頭、同協議会会長のあいさつの後、和田山税務署から令和5年10月から開始される「消費税インボイス制度」について説明がありました。

続いて、兵庫県拠点から、「食料・農業・農村基本法」の改正に向けた動きと本年7月に施行された「みどりの食料システム法」について情報提供を行いました。

その後の意見交換では、「農業者の高齢化と農業者人口が減少する現状で農地をどのようにして次世代に繋げていくか」「スマート農業等を有効に活用した耕作面積の拡大や、農業用水路の維持管理方法の改善が必要」等の意見や主催者から「次世代の経営安定に向け、勇気をもって有機栽培に取り組んでもらいたい」との発言がありました。



当拠点では、今後も関係機関と連携を強化し、意見交換などを通して農業者とネットワークを構築し、現場の課題を解決するために必要とされる支援策などの情報提供を行ってまいります。

MAFFアプリをお役立てください
～経営に・生産に～

MAFFアプリは、農・林・漁業に携わる皆さまに役立つ情報を農林水産省から直接お届けするスマホ用アプリです。(2020年5月から運用を開始し、2022年4月からは農業に加えて林業、漁業に関する情報発信を開始。)

農林漁業者やその関係者だけでなく、どなたでも無料でご利用いただけます。プロフィールとして設定いただいた、お住まいの地域や作目、関心事項等に応じて、役立つ情報をお届けします。

また、現場の情報を農林水産省に直接届けることができます。





～こだわり原料のペットフードで 地域の課題を解決したい～

〈多可町・NPO法人^{カンビオ}cambio 理事長 後藤高広さん〉



多可町でシカ肉ペットフードを製造する、特定非営利活動法人cambio理事長 後藤 高広さんにお話を伺いました。

ーシカ肉ペットフード生産をはじめたきっかけはー

家業の金属加工会社でもともと障害者を雇用していましたが、この地域にはもっと障害者雇用施設(就労継続支援B型)が必要であると感じていました。獣害対策で捕獲したほとんどを廃棄処分としていた当時、シカの有効活用を考えていたこと、安心な国内産ペットフードを作りたいとの思いから平成26年5月に障害者を雇用する事業所を開設し、シカを使用したドッグフードの製造を開始しました。



キクイモの収穫

ーペットフード“TASHIKA”についてー

シカ肉の状態を自分の目で見て確かめるため、解体から精肉・加工まで一貫して自社の事業所で行っています。主原料のシカ肉は多可町や県内の市町で捕獲したもので、副原料のサツマイモやカボチャなども地元産を使用。ニンジン、オクラ、キクイモなどは多可町の耕作放棄地などを活用し、事業所の利用者が生産しています。これらの地元産原料をふんだんに使用したこだわりのペットフードが“TASHIKA”です。



シカポスト(24時間受入可能な冷蔵庫)

ドライフードの他に、ツノや皮はガムなどに加工したり、愛犬のフードを手作りしたいお客さまのための生肉・生ミンチ等も販売しています。

ー今後の展開は？ー

24時間無人でシカを受け入れることができる「シカポスト」を設置し、周辺市町からの受入れを始めたことで、シカの取扱い頭数が年間約3,000頭へ増加しました。

今はシカの解体を2名体制で行っていますが、主原料の供給がペットフード生産に追いつかなくなったので、解体できる人員を増やしたいと考えています。

また、現在は少量しか生産できていないウェットフードは、副原料である「キクイモ」を増産し、顧客の需要に応えられるよう供給数量を増やしたいと考えています。

※地域の課題解決

- 町の駆除ジカの処分費用の増加→ペットフード原料とすることで処分費用が軽減
- 地元住民による駆除ジカ処分の負担→『シカポスト』への搬入で住民自らの処分が不要
- 障害者が働ける場の不足→事業を展開することで障害者の働ける場が拡充
- 耕作放棄地の拡大→副原料の野菜を生産することで耕作放棄地が減少



人気の商品

令和5年10月1日から、インボイス制度が開始されます

インボイス制度に関するWeb説明会の参加者募集中
【農業者、食品関連事業者、関連団体等向け】(無料)



事業者の皆様方には、制度の理解を深め、登録要否の検討を進めていただくとともに、登録をお考えの方には、取引先とのインボイス番号の共有やインボイスにする帳票の検討などの事前準備をスムーズに進めていただけるよう、Webexによるオンライン説明会を開催いたします。

開催日時

- ・令和5年1月12日(木) 10時30分～(1時間) ※10日17時13時10分～(1時間) 申込締切
 - ・令和5年1月18日(水) 10時30分～(1時間) ※16日17時13時10分～(1時間) 申込締切
- (4回開催、いずれも説明内容は同一)

申込方法

以下のURLより必要事項を記載の上お申し込み下さい。

※申込締切：開催日の2日前

https://www.contactus.maff.go.jp/j/kinki/form/221122_4.html

【お問合せ先】近畿農政局企画調整室

担当者：南嶋、瀧脇、徳田 TEL：075-414-9037



兵庫県における 土づくりのためのセミナー

を開催します



農林水産省は、持続可能な食料システムの構築に向け、「みどりの食料システム戦略」を策定し、化学農薬・化学肥料の使用抑制による環境負荷軽減に配慮した取組を推進しています。また、兵庫県においては平成21年に「兵庫県環境創造型農業推進計画」を策定し、良質な堆肥による土づくりと、化学合成した肥料や農薬の使用量を、慣行栽培から3割以上削減する「人と環境にやさしい農業」を推進しているところです。

今後、化学肥料の低減に取り組む農業者や新規就農者、有機農業等へ転換を検討する農業者が、土づくりに関する知識を習得して、営農の課題解決の一助となることを目的とし「**兵庫県における土づくりのためのセミナー**」を開催します。

 日時：**2023年2月1日(水) 13:30~16:00**

 開催方法：オンライン会議（Webex）

 対象者：農業者（新規就農者、有機農業者、土づくりに関心のある者等）
行政機関、JA等

参加費
無料

当日のプログラム、応募方法等については、**兵庫県拠点ホームページをご覧ください**

<https://www.maff.go.jp/kinki/tiiki/kobe/index.html>



【参考】土づくりとは

農作物の**生産基盤となる土壌の、**

- ①根の良好な生長、通気性や排水性等に係わる**物理性**
 - ②施肥した肥料の保持力や養分の供給力等に係わる**化学性**
 - ③微生物による土壌中の有機物の分解等に係わる**生物性**
- を、**堆肥などの有機物や資材等の施用や緑肥作物の導入**などにより改善し、**生産力を高める（≒肥沃な土壌）**こと。

農作物にとって、土壌の物理性、化学性、生物性の改善を通じて、**生育しやすい環境を整える**

例えば、**温暖化による高温時の障害が発生しにくい**といった効果がある

【物理性】

作土の深さ、土壌の硬度、通気性、保水性、排水性、...

例えば、



- ・土が硬いと排水性、根の伸長を阻害
- ・適度な硬さの土で根が伸長を促進、通気性や排水性も良好

【化学性】

pH、CEC、可給態窒素、塩基のバランス、...

例えば、



- ・土の粒子が施肥された肥料を保持

【生物性】

小動物や微生物の種類・量・活動

例えば、



- ・多様な微生物による有機物の分解と循環

農林水産省HPより

農業者向け 農福連携研修会が開催されました 一般コース・実践コースの全5回実施

兵庫県内の農業者を対象に、兵庫県、ひょうご農林機構の主催により「農福連携研修会」が兵庫楽農生活センター（神戸市西区）で開催されました。



豊田教授のアドバイスを基に具体的な「受入計画案」を作成しました



県内の先進事例取組者からの発表がありました

研修は農業現場における障害者受入に係る具体的な注意点を学び、障害に対する理解促進と支援技術の向上を目的に、全5回のカリキュラムで実施されました。

座学だけではなく、実際に支援学校の圃場での作業実習などもあり、参加した研修生からは、「参考になった」という感想が多く聞かれました。

兵庫県拠点としても、関係機関と連携を深め、兵庫県内の農福連携の推進に取り組んでいきます。

帰りたくなる場所 MY HOME ISLAND 家島諸島

- 家島しまたびプロジェクト -

兵庫県の南西部、姫路市から約18km、播磨灘の沖合に大小44の島々から構成される家島諸島。その中で人の住んでいる島は、家島（いへしま）、坊勢島（ぼうぜじま）、男鹿島（たながじま）、西島（にしじま）の4島で約4,000人が暮らしています。

2013年度から家島観光事業組合を中心に地域の観光・船舶事業者、漁協、自治会等からなる「家島諸島都市漁村交流推進協議会」を設立し「家島しまたびプロジェクト」を推進しています。

協議会では、「しまたび予約サイト 家島NAVI」を運営し、おすすめの観光スポットやグルメ、体験等の予約情報がわかりやすく紹介されています。体験では、諸島内の暮らしや食、自然等の地域資源を活用した約20のメニューがあります。



バス往復券「姫路駅～姫路港」と乗船券「姫路港～家島」のセット券が2022年7月16日(土)～2023年3月31日(金)までの期間限定で販売されています。

また、家島諸島は瀬戸内海一ともいわれる漁獲高を誇る魚介類の宝庫です。家島でしか食べられない料理がたくさんあります。ぜひ、一度訪れてみてはいかがでしょうか？



ワタリガニ

晩秋から冬場にシーズンを迎える家島産ワタリガニや坊勢島産サバを目当てに来られる方も多いそうです



坊勢サバ

家島諸島都市漁村交流推進協議会

- ・所在地：姫路市家島町真浦590-7
- ・TEL：079-325-8777（受付時間：10:00～16:00）
- ・アクセス：JR姫路駅より姫路港までバスで20分、姫路港より高速船で30分

※最新の情報は家島観光事業組合のホームページでご確認ください

・ホームページ
<https://h-ieshima.jp/>



家島観光事業組合 検索
家島の情報が満載!!



令和4年度

主催：近畿農政局

参加費
無料

和食オンラインセミナー

セミナーでは、和食に欠かせない「酢」に焦点を当て、「和食と酢」の関わりや食文化を学ぶ基調講演とパネルディスカッションを開催します。

日時：令和5年1月24日(火) 14:00～16:00

開催方法：オンライン（ZOOM）

定員：100名（先着順）

申込期限：令和5年1月20日(金)

申込方法：以下のURL かQR コードからお申し込みください。



<https://www.contactus.maff.go.jp/j/kinki/form/wagohansemina2.html>

兵庫の冬の風景

安志加茂神社のジャンボ干支飾り
(姫路市安富町)



高さ6.5m、全長5.5m、重さ3tあり、地元で収穫された酒米の稲穂を束ねて作られています。ジャンボ干支は来年3月末まで飾られます。



今年も、もう師走。残り僅かですね。毎年、1年が過ぎるのは早いなあと感じます。

先日、某局の「○○ちゃんに叱られる!」という番組を観ていたら、若いころと比べて時が過ぎるのを早く感じるのは「日々の生活にときめきがないから。」と言っていました。そういう意味では今年はコロナの流行、肥料や農業資材の高騰、鳥インフルエンザの多発と良くない事が多い「ときめきの少ない年」だったかもしれませんね。来年は兎年。ぴょんぴょんと兎が楽しく飛び跳ねまわるような「ときめきが多い年」になるようにと願うばかりです。(H・K)

編集後記

地方参事官ホットライン

農政に関するご相談、事業や制度へのご意見・ご質問などがございましたら、お気軽に地方参事官ホットラインまでお問い合わせ下さい。また、広報誌に対してお意見等もお待ちしております。

TEL：078-331-5924 FAX：078-331-5177